

社団法人ゴルファーの緑化促進協力会調査研究

環境と人にやさしい ゴルフとゴルフ場

第11回 ゴルファーを悩ます
スギ花粉症対策について
—発生源対策—

林野庁
研究・保全課長 渋谷 晃太郎



1 スギ花粉とスギ花粉症

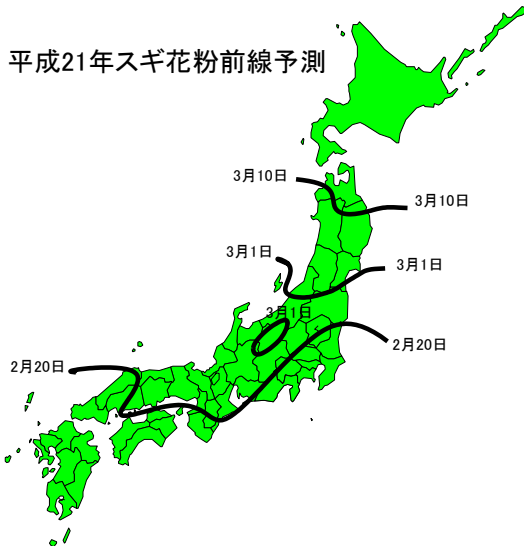
日ごとに暖かくなり、スギの花粉が飛ぶ季節になりました。最近の調査によると、花粉症患者は全国平均で人口の3割を超えたという報告があります。ゴルフ場やその周辺にスギやヒノキが植えられているところも多く、花粉症ゴルファーにはとてもつらい季節だと思います。



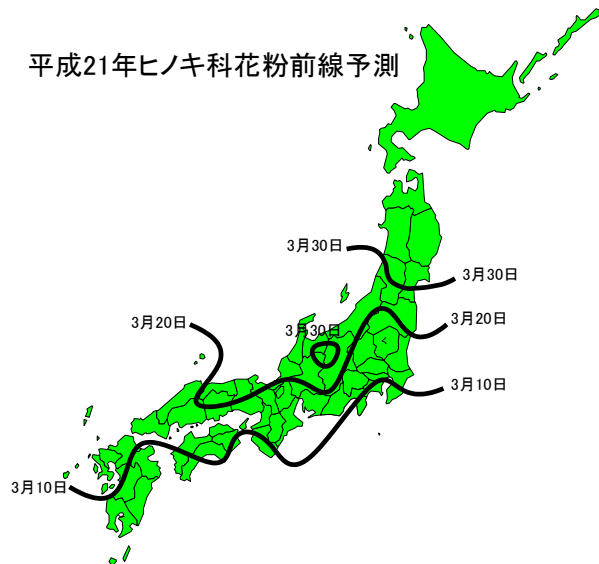
スギ花粉

(花粉症環境保健マニュアル 2009)

平成21年スギ花粉前線予測



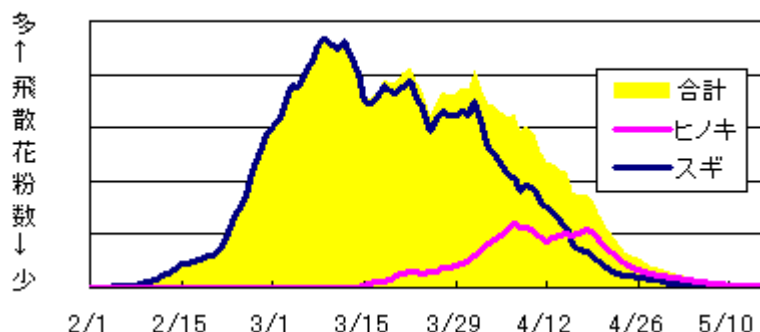
平成21年ヒノキ科花粉前線予測



※スギ花粉症の方の多くはヒノキ花粉でもアレルギーを起こします。西日本には若いヒノキ林が多く、数年後には雄花をつけて花粉を放出します。スギだけではなくヒノキにも注意が必要です。

スギ・ヒノキ科花粉の主な飛散時期について

過去10年間の平均的な飛散傾向(千代田区)



出典：東京都福祉保健局ホームページ

スギやヒノキは、風媒花といって風に花粉を運んでもらって他のスギやヒノキの雌花に届けてもらい種子をつけます。このため、花粉はとても小さくて軽く、大量に作られ遠くまで運ばれます。東京の都心でも花粉症になるのはこのためです。

国では、花粉症対策として花粉の飛散量予報、医薬品の開発などのほか、花粉の発生源であるスギそのものを切って花粉の量を減らすことなど総合的な対策を始めています。しかし、日本にはスギが450万ha、ヒノキが260万ha合計710万ha（日本の森林の1/4）も植林されているため、花粉のでない森に変えるためには数百年はかかると推計されています。また、有効な医薬品の開発も進んでいますが実用化にはまだ時間がかかりそうです。

日本の樹種別森林面積



スギの花粉症対策のために、日本中のスギやヒノキを切ってしまえというご意見をいただくことがあります。なぜこのようにスギ、ヒノキがたくさん植えられたのでしょうか。スギやヒノキは日本固有の優れた性質を持った樹木で、木材としてたいへん優秀で木造建

築になくてはならないものです。また土砂崩れ等を防いだり、水源を涵養したり、増え続ける二酸化炭素を吸収して地球温暖化を防ぐなど様々な機能を発揮して私たちの生活を守っています。そのために先人が大変な苦勞をして 710 万 ha もの植林を行ったのであって、単に花粉症の原因となる悪者ではありません。

こうした公益的な機能を保ちながら、花粉を減らすためには、材として利用するために伐採した後、花粉をつけないスギやヒノキを植林することや、サクラやカエデ、ドングリなどの広葉樹林に植え替えて時間をかけて森を再生することが必要です。



2 花粉の出ないスギやヒノキの開発

スギやヒノキは、住宅用の建材などとして優れた特性を持っています。このため、森林所有者は、スギやヒノキを伐採した後も再び植えたいと思っている方も多くいます。このため、国では 10 年以上前から花粉を作らない「無花粉スギ」やヒノキの探索を始め、現在スギで 2 品種を発見しました。また、各県でも独自に探索が行われ、数種類発見されています。現在これらを親木として苗の生産を開始していますが、現段階では生産量が少ない状況にあります。そこで、過渡期の対策として花粉の生産量が 1% 以下の「少花粉スギ」が開発され、すでに苗が生産されています。

スギ		ヒノキ	
無花粉スギ	2 品種	無花粉ヒノキ	0
少花粉スギ	131 品種	少花粉ヒノキ	55 品種
(少花粉：花粉が 1% 以下)			

こうした準備が整ってきたため、国では花粉の少ない森を作るために、平成 19 年度から花粉症発生源総合対策を開始しました。

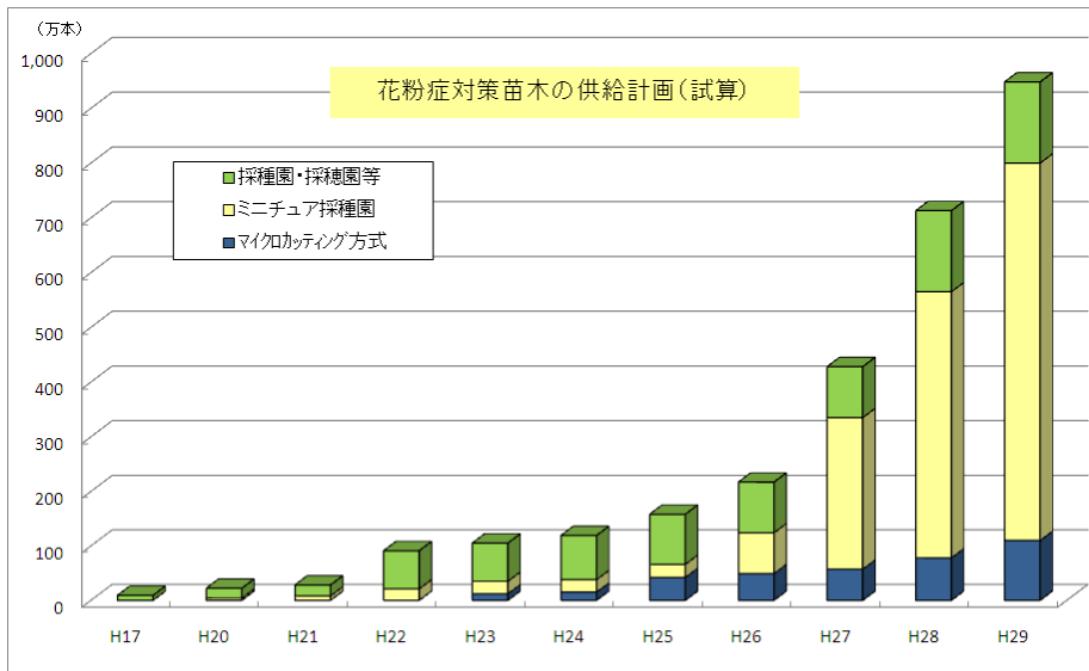
対策は花粉の少ない森林への転換促進と少花粉スギ等の花粉症対策苗木の供給体制の整備を中心に進めることとしています。

具体的な目標は首都圏（東京 23 区）、関西圏（大阪市）等に強い影響を与えているスギ林が 9.5 万 ha と推定されており、このスギ林を 10 年間で半数を広葉樹林等に転換すること、少花粉スギ等の苗を 10 年間で 1000 万本供給することです。

この特定地域のスギ林を広葉樹林などに転換を促進するため、20 万円/ha の協力金を交付することとしています。

また、東京都は、さらに手厚い助成を行っていますし、他の自治体でも独自に花粉症発生源対策を進めているところがあります。

詳しい情報を知りたい方は、お近くの自治体の林業関係部署にお問い合わせください。



3 少花粉スギ苗等の入手方法

少花粉スギ等の苗は、一般的な園芸品店では入手できません。林業用の種苗を扱っている生産者のところで購入することになります。

苗の価格は、80～120 円/本ぐらいですが、まとまった数で発注する必要があります。

供給できる苗の数ですが、無花粉スギは生産が始まったばかりで現在のところほとんど流通していません。また少花粉スギもまだ少ないですが、増産が始まっていますので、数年後には入手しやすくなると思います。また、確実に入手するためには、種苗生産者と委託契約を結ぶことなどの方法があります。

また、生物多様性や四季の変化を豊かにするために、ヤマザクラやミズナラ、コナラといったその地域に適した広葉樹林への転換を進めることも有効です。こうした樹木はできればゴルフ場内で育てているドングリなどから苗を作り、ゴルファーの方や地元の子供たちなどに植林をしてもらうことなどイベント性を持たせることなども良いのではないのでしょうか。また、種苗生産者に委託して苗を作ってもらうこともできると思います。



4 伐採したスギやヒノキの利用について

ゴルフ場の場合、スギやヒノキの伐採を行う際に、森林法に基づく伐採届や、アセスメントなどで周辺の森林が保存緑地となっている場合、その変更の手続きが必要になります。事前に関係する都道府県の環境担当部局や森林担当部局とよく相談をしてください。様々な知恵も出してくれるかもしれません。

また、伐採した木は木材として利用するほか、端材などを薪やペレットとして活用して暖房等に使える、石油の代替燃料として地球温暖化に貢献することにもなり、企業の貢献、PR 材料になると思います。また、いま検討が進んでいるカーボンオフセットや排出量取引にも活用できる可能性があります。



おわりに

花粉症対策に取り組み、また、地球温暖化の防止にも一役買うことができれば、ゴルフ場にとってもまたプレーヤーにとってもメリットがあると思います。地域ぐるみで取り組みを進めている地域もあります。地域貢献として活動に参加することもイメージアップにつながるのではないのでしょうか。ぜひ、花粉のでない森への転換をお願いいたします。

主な情報入手・連絡先

○林野庁

今後の花粉発生源対策の推進方策について

http://www.rinya.maff.go.jp/j/press/hozen/070831_2.html

スギ、ヒノキ花粉に関する情報

<http://www.rinya.maff.go.jp/seisaku/sesakusyoukai/kafun/kafuntop.html>

○環境省花粉情報サイト

<http://www.env.go.jp/chemi/anzen/kafun/>

○スギ、ヒノキの苗についての情報

全国山林種苗協同組合連合会

〒102-0072 東京都千代田区飯田橋 4-9-9 (第7田中ビル8階)

電話 : 03-3262-3071 FAX : 03-3262-3074

<http://zenbyouren.or.jp/index.html>

○東京都花粉症対策ホームページ

<http://www.sangyo-rodo.metro.tokyo.jp/norin/kafun/sugikafun.html>